

令和 7 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立本所中学校
校長名	齊藤 伸治

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
・ 1 年生全教科を見ると、目標値を上回っているのは、国語 (+5.1)、数学 (+1.7)、英語 (+8.4)、下回っているのは、社会 (-5.9)、理科 (-10.4) である。 ・ 2 年生全教科を見ると、目標値を上回っているのは、国語 (+10.1)、社会 (+0.9)、数学 (+6.0) 英語 (+8.3)、同等なのは、理科である。 ・ 3 年生全教科を見ると、すべての教科で目標値を上回っている。国語 (+3.1)、社会 (+1.2)、数学 (+8.1) 英語 (+6.4)、理科 (+9.0) である。	・ 目標値を下回っている社会と理科を目標値まで伸長させる。 ・ 目標値と同等の理科を伸長させる。 ・ 目標値を上回っているが、学習内容が一段と難しくなるので、一層の学力の伸長を図る。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・ 1 年生は、全国平均をすべて上回っている。特に高いのは、学級の規範意識、学習意欲、同等なのは、他者からの評価、発信力、学級の絆、学習習慣である。 ・ 2 年生は、全国平均を上回っているのは、学級の規範意識、下回っているのは、家族のささえ、友達のささえ、成功体験と自信、充実感と向上心、社会参画、学習習慣である。 ・ 3 年生は、全国平均を上回っているのは、学級の規範意識、生活習慣、下回っているのは、家族のささえ、友達のささえ、先生のささえ、充実感と向上心、他者からの評価、社会参画、学級の絆、対人ストレスである。	・ 現状は非常に良いレベルにあるため、維持できるように努める。 ・ 昨年度に下回っていたのは、学習習慣、先生のささえ、充実感と向上心であった。今年度は先生のささえは上回ったが、引き続き同じ項目 2 つが下回っており、それに加えて家族のささえ、友達のささえも下回ったことから、この時期に不安を抱えていることが伺える。 ・ 昨年度に引き続き、家族のささえ、他者からの評価、社会参画、学級の絆、対人ストレスが全国平均を下回っている。進路の実現、行事への取組の中で意識の改善を図る。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・「全国学力・学習状況調査」において (国語) すべての項目で、全国平均正答率を上回っている。特に、知識及び技能が高い(+5.2)。東京都平均正答率と比べると、話すこと・書くこと(-1.3)、読むこと(-2.3)、評価の観点では、思考・判断・表現(-0.6)、問題形式では、記述式(-2.6)で少し下回っている。 (数学) 数学はすべての項目、評価の観点、問題形式とも、全国平均正答率、東京都平均正答率を上回っている。知識・技能(+9.2)、思考・判断・表現(+10.4)上回っている。 (理科) すべての質問項目で全国平均正答率は上回っているが、エネルギーを柱とする領域の知識・技能を問う選択式の問題で東京都平均正答率より1.7%低かった。	・問題で見ると、根拠を明確にして自分の考えを伝える力、わかりやすく伝えるために表現の工夫をする力が少し不足していると考えられる。 ・問題で見ると、図形と関数の知識・技能の問題が東京都の平均正答率を少し下回るので、基礎基本の定着のための取組が必要である。 ・基礎・基本の定着と共に必要な知識を使って、現象を考察する力をつけるための取組が必要である。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 主体的・対話的で深い学びを促す協働作業の推進

主体的・対話的で深い学びを促すため、授業のはじめに学習課題を明確に提示し、各自に課題を把握させている。その課題を解決するべく、まず自らで考え、グループワークで近くの生徒間で話し合い、全体交流の中で課題解決に向かう。生徒間、生徒と教員間の対話によって、気づきを促し、自己の考えを広げ、深める。協働学習の中で、今まで分からなかったことが分かるようになる、今までできなかったことができるようになる、一人では、たどり着けなかった考えにたどり着く。このような取組の中で、学習者の深い学びに真摯に向かう姿勢、聞く力、話す力等を形成する。

(2) 個別最適化学習のための ICT 機器の活用

個別最適な学びを促すため、一人一台端末を活用した教育活動を重点的に行う。その具体例の一つ目として、各自で自発的な学習や家庭学習に取り組む際には、タブレットドリルを活用する。定期考査のための計画的な学習にも有効に利用する。「持ち運びができる」というタブレット端末の利点をいかしたこの学習方法の利点は、個別最適な学びに最も大切な本人の「やる気」に沿って学習できるという点である。

具体例の2つ目として、双方向のコミュニケーションをより豊かにするために使用する。教員側からの発信として、デジタル教材を使って重要事項の拡大表示や画像、動画を見せ、生徒の興味・関心を高めたり、集中させ視覚的に印象付けたりすることができる。また、ロイロノートの提出箱

を利用し、生徒の考えをリアルタイムで把握し、授業終了後も評価のための記録として残すことができる。生徒側としては、学習課題や重要事項、画像や動画などを視覚的にとらえることができ理解しやすい。また、リアルタイムで視覚情報を提示しながら発表したり、何人もの仲間の意見を見ることができたりする等、各自のやり方で知識や技術を身に付けたり、自分の考えを表明し、広げ、深めることができる。

(3) 基礎基本の重視

上記に挙げた、主体的・対話的で深い学びを促す協働な学び、個別最適な学びのための ICT 機器の活用は、すべての教科の基礎基本の定着につながる。その他、少人数指導、朝学習、各種検定試験の校内実施、NTの活用、授業終わりの振り返りの時間の充実、コーチングによる学習展開、基礎確認テスト、振り返りシート、ミライシード等も、基礎基本の定着に有益であるので前年度同様に継続する。

3 「令和8年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 墨田区学習状況調査

①平均正答率

- ・現1年生は、平均正答率が目標値を上回っている国語、英語、数学はこの成績を維持し、社会、理科を目標値と同等になることを目標とする。
- ・現2年生は、平均正答率が目標値を上回っている国語、英語、数学はこの成績を維持し、社会と理科を目標値より、+2 上回るようにすることを目標とする。

②観点別正答率

- ・知識・技能の正答率が、全教科で目標値を上回るようになることを目標とする。特に、社会と理科の基礎基本の定着に重点をおく。

(2) 意識調査 (i - check)

- ・現1年生は、学級の絆、他者からの評価学習習慣、発信力が全国値と同等であったので、規範意識の高さを活かし、学校生活に意欲的に取り組む中で学級の絆を深め、努力の大切さを学び、良い学習習慣を身に付けさせる。また、周囲との良い人間関係を構築する中で発信力なども高めしていく。
- ・現2年生も高い規範意識を活かし、1年時の経験を活かしながら、仲間、先輩、後輩と共に学年や学校建設に取り組む中で、全国値を下回っていた成功体験と自信、充実感と向上心などを育む。また、自らの進路への意識を高める中で、望ましい学習習慣も身に付けさせる。